

ルワンダ月報（２０２２年６月）

※以下は、明示的に記載されたものを除き、ルワンダ通信局（Rwanda News Agency）の記事のとりまとめ。

1. 内政・外政

- １日、リビアから１３２人の難民及び亡命希望者がルワンダに到着。ブゲセラ郡のガシヨラ・トランジット・センターに滞在する。同センターには３５２人の難民及び亡命希望者が滞在中。
- ３日、ルワンダ中国人協会が、自動車メーカー東風風行（Dong Feng）等の中国企業２６社とともに、ギチュンビ郡の学校に２，０００万フラン（約１万９，０００米ドル）相当の文房具、食料、教材、生理用品等を寄付。（The New Times）
- ３日、フランス語圏国際機関（ＯＩＦ）が、武装勢力により状況が悪化しているコンゴ（民）と、同国との関係が悪化しているルワンダとの対話を呼びかけ。
- ３日、ルワンダとザンビアが環境行政分野での連携に関する覚書に署名。
- ５日、カガメ大統領がブロードバンド委員会の開会式でスピーチ。普遍的かつ手頃なブロードバンドの実現に投資することにより、我々が直面しているすべての課題をより良く迅速かつ公平に取り扱うことが可能になると述べた。同委員会は、国際電気通信連合（ＩＴＵ）とユネスコが運営している。
- ６日、カガメ大統領が、ＩＴＵによる世界電気通信開発会議（ＷＴＤＣ）の開会式に参加。
- ６日、国際ワクチン研究所（ＩＶＩ）にルワンダが加盟。
- ８日、カガメ大統領が、ルワンダ訪問中のベッテル（Xavier Bettel）ルクセンブルク首相と面談。同首相は、ファイヨ（Franz Fayot）協力・人道支援大臣とともにビルタ外務大臣とも面談し、技術職業教育・訓練（ＴＶＥＴ）、技術、環境、教育の各分野における二国間の開発協力について協議した。
- ８日、カガメ大統領がエレン・デジェネレス（Ellen DeGeneres）氏（注：ルワンダにゴリラ保護センターを建設した米国の女優）と面談。同氏は、面談前日に、ダイアン・フォッシー・ゴリラ基金の拠点としてゴリラの保護研究を行うリエレン・デジェネレス・キャンパスを設立した。
- １０日、モザンビークでルワンダ軍とモザンビーク軍が国内避難民１２３人の帰還支援を開始。今後、合計３，５５６人の帰還が見込まれている。
- １０日、コンゴ（民）との国境に近いムサンゼ郡にロケット団が着弾。ルワンダ軍によれば、コンゴ（民）軍（FARDC）が同国内ブナガナ地区から発射したもの。同軍による砲撃は、今年３月及び５月に続き３回目。（The New Times）
- １１日、コンゴ（民）がルワンダ産及びブルンジ産の肉の販売を禁止。国連が支援するラジオ局 Radio Okapi によれば、ブジュンブラにおいて牛のリフトバレー熱への感染が確認されたことによるもの。

- 11日、スコットランド（The Rt Hon Patricia Scotland）英連邦事務局長が、今年6月20日の週に英連邦首脳会議（CHOGM）開催期間を前に、東アフリカ協会（EAA）の年次レセプションでスピーチ。英連邦事務局が東アフリカの福祉、開発、及び繁栄のための長期的な支援を継続することを再確認した。
- 14日、カガメ大統領が国際電気通信連合（ITU）のザオ（Houlin Zhao）事務総局長に勲章（Agachiro）を授与。
- 15日、亡命希望者を英国からルワンダへ空路移送する便が出発直前にキャンセル。移送を差し止めるべきとする欧州人権裁判所の判断を受けてのもの。
- 15日、コンゴ（民）のウガンダ国境沿いの町ブナガナが武装勢力M23に占領されたことに対するデモ行進の影響により、ルワンダーコンゴ（民）国境の交通が一時的に閉鎖。
- 15日、在コンゴ（民）米国大使館が、コンゴ（民）国内におけるルワンダ軍の存在を危惧する声明を発表。
- 17日、コンゴ（民）の兵士が国境を越えてルワンダに侵入。ルバブ郡において発砲し、ルワンダの警察官2人が負傷。（The New Times）
- 20日、コンゴ（民）に係る第3回EAC首脳会議が開催。武装勢力M23をルワンダが支援しているとするコンゴ（民）の非難に対し、ルワンダは否定。コンゴ（民）民の越境挑発行為を非難。（The New Times）
- 21日、英連邦ビジネスフォーラムが開催。3日間の開催期間中、政府関係者、ビジネス関係者、開発機関、若者起業家、貿易・投資機関等が参加し、将来の成長に向けた資金調達、貿易、地域統合、持続性、食料システム等について協議する。
- 22日、カガメ大統領夫妻が英国チャールズ皇太子夫妻と面談。二国間パートナーシップ等について議論。
- 23日、カガメ大統領がジョンソン英首相と面談。移民関係を含むルワンダと英国の既存のパートナーシップについて議論。
- 23日、CHOGM開催中に独ビオンテック社のワクチン工場の起工式開催。同工場はキガリ経済特区内のバイオ医薬品製造に指定された区画に建設され、まずは2台のビオンテナー（mRNA生産用と製剤原体生産用）を設置し、設置後12～18ヶ月後に生産が開始される予定。（The New Times）
- 23日、アカマンジ・ルワンダ開発庁（RDB）長官が、ハルワンバ（Albert Halwampa）ザンビア開発庁事務局長と農業分野での協力に関する覚書に署名。（28日付 The New Times）
- 24日、カガメ大統領がトルソー加首相と面談、二国間協力の強化について議論。また、ジョリー加外相がルワンダにおける大使館開設を発表したほか、両国の航空会社が相互乗り入れするための航空協定（BASA）に署名した。
- 24日、カガメ大統領がCHOGM開会式でスピーチ。「大英帝国と歴史的な繋がりのない新しい加盟国であるルワンダでの会議開催は、変化する世界に向け、英連邦が再構築し続けるということを表明するもの」等と発言。

- 25日、ルワンダとジャマイカが、観光分野での協力は相互に資すると発表、バートレット（Edmund Burtlett）ジャマイカ観光大臣が、近い将来のキガリとキングストンの直行便のためのルワンダ航空との協議を開始したと述べた（28日付 The New Times）
- 27日、ンギレンヘ首相が、ジャグナット（Pravind Kumar Jugnauth）モーリシャス首相とニャマガベ郡キビリジ・セクターに建設した水力発電ダムの竣工式に参加。同ダムはモーリシャス企業の子会社である Omnihydro Power Plant Ltd が建設。5.5メガワットで17万5,000世帯に電力を供給する。

2. 開発協力

- 4日、イスラエルが1億4,500万ルワンダ・フラン（約1,400万米ドル）相当の医療用ベッド及び個人防護具（PPE）を供与。
- 9日、今井大使がWFPとともにマハマ難民キャンプを訪問、令和3年度補正予算案件「マハマキャンプにおける難民に対する食料及び栄養支援」の食料引渡式に参加。
- 22日、EUがルワンダ食品医薬品局（Rwanda FDA）に対する姉妹提携による200万ユーロの協力（twinning cooperation）を開始。同協力を通じて、FDAは、専門家派遣、セミナー、ワークショップ、研修等に関して、EU各国規制団体による支援を得ることが可能になる。
- 23日、英国の開発金融機関BIIが、ノルウェーのNorfundとの共同プロジェクトを通じ、アフリカの水力発電に2億米ドルの出資。ルワンダ・ブルンジ・コンゴ（民）への電力供給を可能にする205メガワットのルジジIII水力発電所の建設も含まれる。

3. 経済

- 16日、2022年第1四半期のGDP成長率7.9%。主な成長要因はサービス業（成長率11%）、農業（成長率1%）、工業（成長率10%）。
- 22日、中国の電話メーカーTECNO社が若者向けの新機種CAMON19を発売。同社はルワンダ国内に300店舗を展開し、400人以上を雇用している。（The New Times）

以上